

Letters

レターズ / 会員の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

スマイルズ新年号にて掲載したさんちゃんさんのお便りへ、会員の方々からたくさんのお返事をいただきました。投稿されたレターズに対しこのような反響があることは、今回が初めてのことでした。今号では、通常とはすこし違った形のレターズとして、寄せられたお返事を紹介します。

【新年号掲載 さんちゃんさんからのお便り（一部抜粋）】

義母より「死んだ息子がかわいそうで孫よりも大事なんだ」と、突然メールが送られて来て、返事もできないほどびっくりしてしまいました。

悲しいのは解るのですが、私はどう対応していいのかと考え込んでしまいます。お正月など、家族の行事で何事もなかったように顔を合わせるのが一番でしょうか…。私の気持ちの行き所が無くて…。

ふうちゃんママさん 千葉県柏市



私が夫を亡くして1番大変だと思った事は、夫の母や兄姉など親戚との付き合い方です。さんちゃんさんが義母との付き合い方に悩むお気持ちはよくわかります。まだ一周忌が過ぎたばかりとのこと、きっとこれからも心を痛められることがいろいろあるのではないかとお察いたします。私は11年が過ぎ、その間、本当に悩むことが多くありました。自分の心に無理ができなくなったときに、最小限の親せき付き合いだけにして離れるようにしました。

母親が元気でないと子供も元気には育ちません。夫が何を望んでいるかを想いつつ、心の整理をしてきました。天国から、ご主人さまはきっと応援のメッセージを送ってくださることと思います。無理をしすぎずに元気にお過ごしください。

ダッチちゃんさん 山梨県都留市



一周忌を迎えられたところのさんちゃんさんのお手紙を拝見しました。

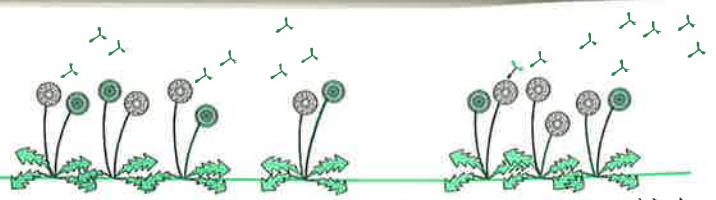
夫の親との関係では、私もいろいろと面倒なことがありました。

主人には生みの母と育ての母がおり、小学生の頃離れた生みの親とは、その後も父親に内緒で会っていたようです。私が主人と知り合って間もない頃、生みの母親を紹介され、ずっと付き合いは続いていました。

主人が事故の時乗っていたバイクを生みの母親名義にしていた事で、そちらに警察から連絡がいき、病院で、主人の父母（継母）、生みの親が鉢合わせとなったようで、生みの母が私を味方につけようとして、いろいろ嘘をついていたのです。葬儀に来て下さった友人達にも主人の母親だと名乗り歩き、その後私と子供と一緒に暮らしたいとまで言ってきました。

主人が生みの母の事を大切に思っていた事は感じていましたが、精神的に苦しめられ、電話にも出ないようになり、連絡がとぎれて4年になります。

一番大切なのはさんちゃんさんの気持ちだと思いますよ。

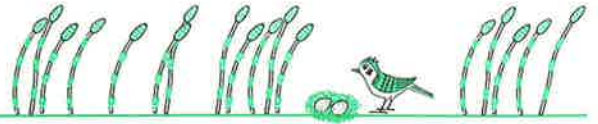


E・Mさん 佐賀県佐賀市

一人で初めての子育ては、本当に大変だと思います。亡くなったご主人の三回忌、七回忌までは、ご主人の実家とのお付き合いも大変だと思います。

昨年七月に一三回忌を迎えた際、うちの子達は、嫌な思いをするなら来なければよかった、と言うくらい。何年経っても、息子は大事な存在で、生きている嫁の私をイジめるのです。でも私も子供を亡くしたら、どんな事をするかわからないなあ…。くやしい！ヤダッ！と思いつつ、だんだん疎遠になっていくんじゃないでしょうか。ご主人はいつも近くから見ているくれます。今、一番大変な時期なんだと思います。頑張っています！

私は、主人の実家へ車で5分の所に住んでいますが、今はほとんど会う事はありません。主人が亡くなったから、「鉄の女」に磨きがかかりました。



I・Hさん 福岡県北九州市

さんちゃんさま

おひとりで、6か月のお子さんを育てていらして、心から応援いたします。

私も7年前に夫を亡くし、当時4歳2歳の子供たちももう5年生3年生になりました。お義母さまの対応に心乱れるのも、同じ経験をしたからよくわかります。

ご主人さまは、お義母さんには息子さん、たとえばお義姉さんには弟さん、お義弟さんにはお兄さん、それぞれにとって大事な人です。どれも同じ人間関係ではないからこそ、悲しみの感じ方、表現も人それぞれです。ともすれば、みな、自分が一番悲しい、と思いがちです。お義母さんはまさにいまそういう状況で、他のことに目を向ける余裕はないのではないのでしょうか。自分の悲しみにせいっぱいで、夫を亡くしたあなたの悲しさには思いが至らないような気がします。

私は一周忌のときに、実の母から、「あなたも苦しかっただろうけど未来に目を向けなさい」と言われました。母は私を元気づけようと思っただけの発言ですが、「私の気持ちなんて何も分かってない！」と怒りで気が狂いそうでした。1年たっても悲しみは薄まるどころか形を変えてやってくる、なんてことは体験していない人にはわかりません。でもその時に、泣きながら、ああ、この苦しみは自分ですべて消化していかないと、誰も助けてはくれないんだ…とぼんやり思ったのです。そう思ったら、なにも腹が立たなくなったし、気にならなくなりました。お義母さんの発言は忘れましょう。小さなお孫さんを見てみると、ご主人の小さな頃がよみがえってきて、苦しいんだと思いますよ。でも私たちには、子供を亡くした苦しさはわからないのですから、お互い様です。みんなもがいて苦しんで、この時を乗り越えていくんだと思います。

悲しみはひとそれぞれ。気にしない。悲しみを外にぶつけながら生きる人と、内に秘めて生きていく人と、それぞれです。どちらがいいとかわるいとかでなく、それがその人の生き方だと思います。さんちゃんさま、お子さんとすこしずつ歩いていきましょう。大きくなればなるほど、お子さんが、ご主人と重なる時が来ますよ。そのときは、ほんとうにたのもしい最大の味方になってくれます。そして、ご主人は、24時間一緒です。ご主人の存在を感じて、毎日大切に生きていきましょう。

私たちが頑張りますね！

【基金事務局より】

いつも基金へのお便り、ありがとうございます。

今回のレターズはいかがでしたでしょうか。会員の皆様それぞれ、子育てや日々の生活、親せき付き合い等、相談しづらいお悩みをお持ちだと思います。ご祖父様ご祖母さまからの、ご意見やご感想などもお待ちしております。

今後も、会員の方同士の、紙面上でのコミュニケーションをはかっていけたらと思っておりますので、ご質問、ご相談などのお便りも、お気軽にお送りください。